

ROTARY INTERNATIONAL GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



OFFICE OF GOVERNOR OF DISTRICT NO. 360

SHUHEI Y. MORITA

SHIKISHIMA BAKING CO., LTD.
NAGAHEI-CHO, HIGASHI-KU, NAGOYA, JAPAN



No. 5 (October 15, 1957)

昭和32年10月15日

第360区ロータリークラブ

会長並に幹事殿

国際ロータリー第360区ガバナー

盛 田 秀 平

○ 1957年度第350, 355, 360区連合年次 大会: Report on Joint Annual Con- ference of Districts 350, 355 and 360 in TOKYO (28~29 Sept. 1957)

日本のロータリー地区再編成後 第360区としての最初の年次大会は去る9月28, 29日の両日東京青山の明治神宮外苑にある東京都体育館に於て開催されましたが、来賓として高松宮殿下並に同妃殿下をはじめ日本のロータリー再建に尽瘁された George R. Means 君夫妻を R. I. 会長特別代理に迎え、マッカーサー米国大使、外務大臣（代理）、東京都知事、R. I. 理事小林雅一君夫妻、R. I. カウンセラー黒川巖君夫妻、各バストガバナー夫妻の臨席と、総計 2,277 名に上るロータリアン並に夫人の参会を得て稀にみる盛儀となったことは、ホストクラブとして一カ年に亘って準備に努力された東京南 R. C. 会員諸君の御尽力、特に同クラブ会長加藤弁三郎君、大会委員長佐久間長吉郎君及大会幹事清瀬二郎君の

並々ならぬ御苦心の賜であって我々衷心から感謝するところでありますが、これと同時に現下日本に於るロータリークラブの隆盛を反映するものとして洵に御同慶に堪えません。ここに本大会の模様を略記して報告に代えたいと思います。

前夜懇談会

例により日本独特の前夜懇談会が27日午後5時より東京会館に於て開かれ次の議題を討議処理しました。

(1) 1961年度国際大会東京招致の件についての経過報告

1961年度国際大会開催候補地はサンパウロ、ロンドン、東京の三ヶ処ですが、現在の情勢ではその実現可能性はロンドン7分、東京3分となっており、最終的決定は明年1月に開かれる R. I. 理事会の決定に依りますが、要は地元の熱意如何が大きく影響する旨小林 R. I. 理事から説明がありました。

東京招致に関する件は満場一致決議として本会議上程に決定。

ENLIST for ACTION, EXTEND for STRENGTH, EXPLORE for KNOWLEDGE

(2) Tennent会長本ロータリー年度の目標達成に関する件

Tennent会長の本年度目標即ち「動員、拡大、探求及び奉仕」に努力しようとの提案は、満場一致決議として本会議上程に決定。

(3) 1958～59年度ロータリー財団奨学生に関する件

(4) ロータリーの凡ての文書文献を邦語にする件（北見R.C. 提案）

今後新設されるクラブは比較的辺邑に多いと思われるからロータリーの文書文献は凡て邦語に訳した方がロータリーの発展により資すると思われると提案。満場一致決議として本会議上程に決定。

(5) 次期地区大会開催地に関する件

次の如く規案され満場一致本会議上程に決定。

第 350 区…………小樽

第 355 区…………前橋

第 360 区…………岐阜

(6) 地区ガバナーノミニー選出に関する件

次期各地区ガバナーノミニー選出に就ては各地区にバストガバナーよりなるガバナー指名委員会を設置してガバナーノミニー詮衡の任に当らしめることを提案。満場一致本会議上程に決定。

(7) 1958年度国際大会に提出された規定改正及び決議案に関する件

本件に関して地区毎に委員会を設置して研究することを提案。満場一致本会議上程に決定。

(8)

A. 連合地区大会のホストクラブ 東京南 R.C. に感謝の意を表する件。並に開催地東京都に感謝の意を表すため出席会員 1 人 500 円つつ釀出してその処理をホストクラブに一任する件。

B. 地区再編成に関する件（北見 R.C. 提案）

地区再編成に関して研究機関を設置することを提案。

以上 2 案とも満場一致本会議上程に決定。

斯くて懇談会を終って晩餐会に移り午後 7 時半 散会 しましたが、この前夜 懇談会 には Means R.I. 会長代理も出席して熱心に討議の進行を注視していました。

大会第 1 日

大会第 1 日は 9 月 28 日午前 8 時半に登録開始されましたが、会場の前庭にはテントが特設され、登録受付と接待につとめるホストクラブの会員とその家族に迎えられて、登録開始を待ち兼ねて続々と乗り込んで来た参会者で、さしも広大な体育館の前庭も狭くなったように感じられ、あちらこちらで久闊を敘しているロータリアンの笑顔に、開会前既に嬉しいロータリー風景が見られました。

会場に充てられた体育館はその広い内部を二つに仕切り、その一つには一方に演壇を設け、一階二階の観客席に加えてフロアーにも椅子が並べられ、他の一つは立食式食堂につくられていました。

聴て定刻 9 時半、清瀬二郎大会幹事の開会宣言によって大会第 1 日の幕は切れておとされました。先ず全員君が代とロータリーソング「奉仕の理想」を合唱、佐久間長吉郎大会委員長の開会の辞に続いて私が R.I. 会長代理 Means 君並に来賓各位を紹介、加藤弁三郎ホストクラブ会長と安井誠一郎東京都知事が夫々歓迎の辞を述べ、次いで第 350 区ガバナー佐藤幸三君、第 355 区ガバナー東ヶ崎潔君、第 360 区ガバナーの私が各々起って挨拶の言葉を述べました。次いで来賓として藤山愛一郎外務大臣代理松本滝蔵外務政務次官、ダグラス・マッカーサー米国大使が祝辞を述べ（後記）、続いて George Means R.I. 会長代理がメッセージ（後記）を述べて参会者に深い感銘を与えました。

次に昨年の地区大会後今次連合地区大会に至る間に逝去された会員（第 360 区 6 名）に対し参会者一同起立して黙禱を捧げ、終って塚本峰吉資格審査委員長から資格審査委員会の報告があり、またこの一年間に誕生した新クラブ、第 350 区の苫小牧、湯沢、弟子屈、

仙台南、稚内、旭川西、上ノ山。第355区の太田、松戸、銚子、三条、茂塚、東京西北、渋川、新発田、石岡、東京武蔵野、平塚。第360区の岐阜南、名古屋南、豊橋北、三島、諏訪、浜松東の紹介があった后、ロータリーソング「それでこそロータリー」の合唱を以て午前のプログラムを終って昼食に移りました。

正午より午後1時迄の昼食休憩の間、ガバナーノミニー及び規定審議会の代議員選挙を行って当地区は四日市R.C. 会員九鬼紋七君がガバナーノミニー及び規定審議会代議員に選ばれました。この間また決議委員会が開かれて後出の決議文作成に当りました。

午後1時再会、会場内のあちらこちらに別れて部門別協議会に移り、次の通り多数出席して熱心に協議が行われましたが、各部門の議題並に協議の経過に就いては、未だ記録の整理が出来ていませんので后程纏めて刊行される大会記録に譲ります。

部門別協議会

- | | |
|------------|-----------------------|
| (1) クラブ奉仕A | 出席者92名 |
| リーダー | 加藤恭太郎君(名古屋西) |
| アドバイザー | 戸田直温君(パストガバナー) |
| (2) クラブ奉仕B | 出席者152名 |
| リーダー | 嵯峨 旻君(釧路) |
| アドバイザー | 柳瀬省吾君(パストガバナー) |
| (3) 社会奉仕 | 出席者69名 |
| リーダー | 蛭川勝智君(静岡) |
| アドバイザー | 伊藤次郎左衛門君
(パストガバナー) |
| (4) 国際奉仕 | 出席者140名 |
| リーダー | 竹内俊一君(東京) |
| アドバイザー | 小松隆君(パストガバナー) |
| (5) 職業奉仕 | 出席者180名 |
| リーダー | 渡辺完三君(川崎) |
| アドバイザー | 伊藤文吉君(パストガバナー) |
| (6) 青少年奉仕 | 出席者82名 |
| リーダー | 佐々木統一郎君(塩釜) |
| アドバイザー | 宮脇富君(パストガバナー) |
- 部門別協議会は午後2時半まで続けられま

したが、この間大会参加の家族は二手に分れて増築完成した伊勢丹と東急文化会館プラネタリウムに招待されました。

少時休憩の後大会は午後2時40分ロータリーソング「我等の生業」合唱を以て再開され、芳賀津二彦登録委員長から登録委員会報告として本大会出席会員並に家族総計2,277名、地区別にして第350区から352名、第355区1,106名、第360区479名と公式に報告されました。次いでRotary Foundation Fellowの神野安子さんの挨拶があり、(米山フアンド学生挨拶は学生欠席のため省略)、続いてFrank Spain 懸賞論文当選者 栃木高校3年生 本田昌一君(旧60区分)と岐阜薬科大学2年生久保昌子さんの氏名並に本田君の“What can I do to advance World Peace”久保さんの“Japan's Participation in the U.N. and World Peace”と題する当選論文の発表が行われました。

3時半からは津島R.C. から昨年度旧60区の出席競争優勝杯が返還された后、出席優秀クラブとして

	旧60区	旧62区
1位	木 更 津	横 須 賀
2 "	北 見	熱 海
3 "	桐 生	高 岡
4 "	浦 和	伊 勢
5 "	小 樽	沼 津
6 "	船 橋	川 崎
7 "	前 橋	津 島
8 "	足 利	伊 東
9 "	札 幌 南	藤 沢
10 "	千 葉	名古屋西

の各クラブが表彰されました。

3時45分からは作家吉川英治氏が30分間に亘って興味深い講演を行い、終って伊藤豊次第350区、東久世昌枝第355区、佐伯卯四郎第360区各選挙委員長から各地区のガバナーノミニー選挙の結果が報告され、続いて各地区ガバナーからガバナーノミニーとして

- | | |
|-------|--------------|
| 第350区 | 伊部政次郎君(函館) |
| 第355区 | 佐久間長吉郎君(東京南) |

第360区 九鬼 紋七君(四日市)

を紹介、簡単な経歴を披露しました。

当地区のガバナーノミニー九鬼紋七君は明治28年10月13日四日市に生れ、大正10年慶応義塾大学を卒業した後英国に留学、昭和3年東洋紡績株式会社監査役、昭和7年東海電線株式会社取締役、昭和13年日本無線電話株式会社取締役、昭和14年三重銀行頭取を歴任、昭和17～20年衆議院議員、昭和7～20年四日市商工会議所副会頭の顯職にあり、昭和26年以来四日市製油場株式会社社長の任にある英国型紳士で、昭和14年には紺綬褒章を以てその功績を酬いられております。ロータリアンとしては昭和11年四日市ロータリークラブ結成に当って委員長をつとめ、翌12年と25年の2度に亘って同クラブの会長の任にあつて同クラブの発展に尽瘁された熱心なベテランロータリアンであります。

3地区のガバナーノミニー紹介に続いて各ガバナーノミニーの挨拶がありました。

次いでGeorge Means君夫妻、伊藤文吉君、戸田直温君両バスターガバナーに夫々記念品が満場の拍手裡に贈呈されました。

5分間休憩の後5時5分から余興に移り、花柳徳兵衛及び社中、杵屋栄蔵及び社中、OB交響楽団による舞踊が行われましたが、高松宮殿下御夫妻はこの余興の時に御来場されました。

余興を終って6時半から晩餐会に移り、一堂に会した二千数百名に上るロータリアンとその家族が醸し出すロータリー独特の和氣霽々たる雰囲気を楽しむひとときを満喫して7時半「手に手つないで」のロータリーソングを以て大会第1日のプログラムを終了致しました。

大会第2日

大会第2日は29日午前9時35分、前日と同じ東京都体育館に於てロータリーソング「奉仕の理想」合唱を以て始められました。

先ず宮脇富決議委員長が決議委員会報告として後述の決議文を朗読、東ヶ崎第355区ガ

バナーがガバナー代表として之を出席者にはかり、満場一致全決議が採択されました。

続いて前日開かれた部門別協議会の報告が各リーダーから行われました。

次にR.I.理事小林雅一君の講演に移りましたが、同君の講演は故米山梅吉君の尽力で1920年に東京R.C.が日本最初のロータリークラブとして誕生した前後から、今日の隆盛を見るに至る迄の日本に於るロータリークラブ発達史を述べたもので、我々ロータリアンにとって極めて興味深い且つ参考となる名講演でありました。

昼食休憩の後、午後1時ロータリーソング「それでこそロータリー」を以て再開され、小松隆君をモデレーター、伊藤次郎左衛門、柳瀬省吾、伊藤文吉、戸田直温の4君をパネルとしたTown Meetingに移りました。このMeetingは活潑な討論に終始しましたが、内容の詳細は大会記録に譲ることとし、ここでは省略させていただきます。

2時35分東久世昌枝君(横浜)が参加クラブを代表して挨拶、続いて次期大会開催地第350区小樽、第355区前橋、第360区岐阜の各クラブ会長が挨拶しました。

次いでGeorge Means R.I.会長代理が立って本大会の印象を述べ、盛会を称讃しました。

続いて私は挨拶として、大会準備に当たったホストクラブの御努力に対し、大会運営の任に当たった委員諸君に対し、宮内庁内閣東京都庁並に報道機関の協力に対し、多数参加して大会を盛会たらしめた参会のロータリアンに対し、会長代理として来日されたMeans君夫妻に対し敬意と感謝の意を述べました。

斯くてロータリーソング「手に手つないで」の合唱と田中東馬ホストクラブ副会長の閉会の辞を以て2日間の連合地区大会は大成功裡に終わったのであります。

尚翌30日はエキスカージョンとして宮城内を拝観致しましたが、約1,000名の会員家族が参加致しました。また午後3時から5時迄岸首相主催のTea Partyが首相官邸で開かれました。

国際ロータリー会長よりのメッセージ

(会長代理 George R. Means)

この前私が皆さんの美しい国に参りましたのは9年前のことでありました。当時、この偉大なる都市にロータリー・クラブが組織されるに当って列席する特権を与えられたのであります。約二カ月滞在して日本を去ったのでありますが、その間既に七つのロータリー・クラブが組織され、456人の会員を得ておりました。それは私の知る限り、何れにも劣らぬ献身的なそして熱狂的な人々の集りでありました。それ以来、私は最大の関心を持って日本に於けるロータリーの発展を見守って参りました。そして、今、少しの嘘、偽りもなく、同時に最大の満足をもて申上げられることは、日本のロータリーの強化と拡大は私の希望と期待の最大限を遙かに超えて進んできたということであります。心からお慶びを申し上げます。

今日私は、この合同地区大会に当って、“バズ”テナントの愛称を以て我々一同に知られている、立派な会長、チャールス G. テナント氏の代理として出席致しますことを真に光榮とするものであります。会長からくれぐれもよろしくとのこと、ここに皆さまにお伝え致します。

ここに集りの各ロータリー・クラブの会長には既に“バズ”会長から懇請の一文が送られています。即ち

我々は一人残らず献身の決意を更たにする
我々自らの生活、そして他の人々の生活にも奉仕の理想を一層積極的に実現する。

我々は一人残らず自らの持つ手段と精力の限りを尽して奉仕の途を探究し、全人類の幸福のためにロータリーの広大な潜在力を活用すべく努力する。

我々は一人残らず相携えてロータリー奉仕に邁進する

ことをお願いしています。かくして、“バズ”テナントの本年度の主要目標は、

動員 拡張 探究 奉仕

であり、ロータリーの世界にあって、皆さん方自身のクラブ内に於てこそ会長のこの懇請が最も効果的に応えられるものと考えてるのであります。

私はここに国際ロータリー会長代理として列席しているのみでなく、東京ロータリー倶楽部の会員として参列していることを誇りとするものであります。東京ロータリー倶楽部が私を名誉会員に推薦いたされたことは私の深く銘記するところであります。私は全く皆さんの仲間であると感じます。そして最大の興味を以て皆さん方の数多くのクラブ活動と日本のロータリー地区全般に涉って素晴らしい事業を見つめております。

約5年前の1952年11月のこと、久留米ロータリー・クラブが国際ロータリーに加入を承諾されました。この事実を知り又いかに私が日本のロータリーに関心を持っているかを承知している“バズ”テナントは、当時私に手紙を寄せて久留米つじという花の中でも最も美しいものの一つについて書いてくれました。

42年前、久留米の赤司広楽園から出品された30本のこの木は、米国サンフランシスコに開催されたパナマ太平洋博覧会で金賞を授与されました。無数に咲く優美な花は心を奪われる美しさで魅惑そのものであります。その時から久留米つじが米国に植えられるようにもなりました。今日、米国、特に東部にあっては久留米つじ程需要の大きい植木はありません。世界中の何百万という人々は最も美しく、最も人気のある花の一つを日本人のお蔭で楽しんでいるのであります。

霧島山に野生する一本の樹から美と麗とが世界中に分与えられました。1920年、折柄、米国テキサス州ダラスを訪問中の米山梅吉氏は、ロータリーを知る機会を得て一つの考えを持ち、それは1921年東京ロータリー倶楽部の創立となり、その後日本のロータリーは発展をつけて1940年に到りました。東京ロータリー倶楽部の歴史によれば、日本にロータリー精神を温存するために、その年ロータリ

ークラブは解散したのであります。

この精神が実在したこと、そしてそれが温存されたことを我々は皆知っています。私は東京、名古屋、神戸、京都、大阪、福岡、札幌にロータリーの組織をお手伝して自分の眼でそれを見たのであります。その直後横浜ロータリー・クラブが出来ました、そしてその後相次いで多数のクラブが組織され、今日、日本に於けるロータリー・クラブは 231 に達したのであります。そしてその一つ一つが活潑な、強力なそして有用な国際ロータリーの一員であります。日本に 500 のロータリー・クラブが出来る日を私は確信を以て待っております。

皆さん方の一人一人、そして皆さん方の如き何千という人々がこうした発展を可能にするのであります。その中でもし、私が特に一人選んで名指すとすれば、私は皆さん方全部の名を挙げねばなりません。しかし米山氏以外に三人の名前を挙げてそれらの方々の格別の努力と尽力に対して讃辞を呈したいと思えます。丁度 9 年前にお会いした小松隆君の功績は私が常に感謝を以て称えるところであります。同君はご自身の多大の不便を忍んで私と行を共にし、各地にあってロータリー精神を持って活動して来た人々とお会いする機会を作って下さいました。小松君の働きは評価出来ない程であります。同君はロータリーのために尽すところ多大であり、又 1955—56 年度の地区ガバナーそして昨年はロータリー情報のカウンセラーといった色々な資格に於て奉仕されて来ました。

数カ月後に私が日本に戻って来たときに、手島知健君は惜しむところなく関心と精力を費して私に同行、本州、九州、北海道に涉って旅行し、ガイドを勤め、通訳となり、就中、日一日と友情を尽して下さいました。地区ガバナーとしての奉仕、そして後には 2 年間国際ロータリーの理事としての奉仕は同君の献身を物語るものであります。我々は斯様な会合に同君の顔を見られぬことを残念に思いますが、そして同君が引きつゝいて快方に向われ

完全な健康をとり戻されるよう祈るものであります。

初めてお会いする何年も前から私は小林雅一君のことを知っていました。1929 年、東京ロータリー倶楽部に入会して間もなく、同君はクラブの幹事として、今日も尙持ち続けられる献身的精神を以て、奉仕されることになりました。1948 年及び 1949 年当時にも多大の助力を与えられました。爾来、同君は日本に於けるフィスカル・エイジェントとし、地区ガバナーとし、ロータリー情報のカウンセラーとして国際ロータリーに奉仕され、そして本年と明年は国際ロータリーの理事を勤められています。これはロータリアンとしての“コーペイ”に捧げる感謝の表示であるのみならず、日本全土に涉ってロータリーがいかに有力であるかの証左でもあります。

日本の他 105 カ国、即ち世界の 106 カ国にロータリーがあり、9,571 のロータリー・クラブが存在します。この機会に世界を廻るロータリーについて少しお話をしたいと思います。

1905 年には一つの都市に一つのクラブがあり 4 人の会員がおりました。それが今日では 9,600 に近いクラブと 450,000 を超える会員があります。ロータリー・クラブは、日曜日、土曜日を含めて毎週すべての日に会合しています。その上世界中の時差を考慮にいれば、何れの日をとっても、1 時間として世界何れかの地に於てロータリーの主催の下に人々が会合していない時はあるまいとすら考えられるのであります。

又興味あることに、第二のロータリー・クラブが米国、カリフォルニア州サンフランシスコに出来たのは第一のクラブの創立後、32,000 余時間を経た後であり、しかもこの 3 年余の期間を計算にいれても、今日までに、ロータリー・クラブは 49 時間に一つの割合で組織されて来ています。もし世界中のクラブを訪問しようと出発し、一日一クラブを訪れるとしたならば、全部を訪問し終るのに 24 年と 325 日を要します。そしてそれを終ってからその 24 年と 325 日の訪問中に出来たクラブ

の訪問を始められるというわけであります。

世界を通じて、ロータリー・クラブの会員は81.6%の出席率を以て、来る週も来る週も例会に出席しています。日本に於ては、皆さんの関心と熱心もあり、又恐らく多数の国々と比べて、クラブ間の距離の短い有利もあって、皆さんの平均出席率は92.7%であります。皆さんにとっても私にとっても大きな意義を持つロータリーの如く、人々の興味と関心を集中しそして奉仕の実行を把握している団体、運動は私の知らざるところであります。

エヴァンストンにある皆さんの事務局には170人程の人々が各クラブに奉仕し、雑誌を二つの言葉で編集していますが、そこでは10の異なる国語が扱われています。我々が受ける通信の中に真に判り難いものもあり、たゞ最善を尽して判読するのみであります、それは30の異った言葉で送られて来ます。そして毎日、我々が皆さんの団体の帳簿をしめるとき、世界各地の41の異なる通貨を共通の単位にして計算しなければならないのであります。

しかし乍ら、国際ロータリーは、クラブが幾つあるとか、その会員が何人いるか、或は皆さんの事務局に勤務する人間が何人あるかといった如き数字に即して論議され又は考察されるべきものではありません。ロータリーは他人に役立つものであり又他人に思いやりを示すものであります。それは自己を超えての奉仕であります。それは皆さん方がそして私が、日常の生活経験の中に奉仕の理想を実現すべく、個人として又団体として行う行為であります。

比較的最近のこと、私は札幌ロータリー・クラブの活動について報告を読みました。同クラブでは、普通では表彰される機会を余り持たない地位にある公吏の永年に渉る奉仕を表彰したいというのであります。これによって同クラブ会員は被表彰者に荣誉を与えたのみでなく、彼等の職業に権威をもたらしたのであります。その例会に招かれたのは郵便配達人、警察官、駅の赤帽、都電の車掌と学校

の小使であり、“皆さん方の市民に対する奉仕を感謝します。皆さん方の仕事はまことに重要であります。我々は皆さん方に感謝し、皆さんを通じて皆さんと同じような仕事を吾が市でやっておられる方に感謝します”という言葉で迎えられたのであります。これは立派な職業奉仕であります。

米国オハイオ州シンシナティでは、毎年、近郊の高校に在学する十代の若人約710人が2日間に渉る会議に招集されます。その会議ではどんなことが行われるのでしょうか？彼等はそこで外国から来た人々大使、或はロータリーのカウンセラーといった人々の講演を聞きます。こうした人々は世界の別の地域の姿を描き、習慣やものの考え方そして最近の出来事を伝えてくれるのであります。かくして集まった710人の若人は、この経験を通じて、視野を広め、洞察を深め、そして今日我々が住む世界は時間的距離或は相互接触の機会の点に於て、あたかも一代前の地方の一町村の中に於けると同様の小ささに層一層近づいていることを強く印象づけられるのであります。

又、ニュージーランドのモリスヴィルのクラブでは映画を作って米国伊利ノイ州のモリス・ロータリー・クラブの製作した映画と交換しました。それは双方のクラブにとって素晴らしいプログラムでありました。オーストラリア、ニュー・サウス・ウェルズ州のロートンでは録音にスライドをつけて各国のロータリー・クラブに送りました。受けとった側ではオーストラリアの興味ある風景を見るのみでなくその解説をも聞くことが出来たのであります。

これはアイスランドの寒風吹きすさむ北海岸に僅か28人の会員を持つ小さなクラブの例会での話です。その日報されたのはこのようなことでした。“我々の企画とはこれです。この町の上にある不毛で石だらけの斜面に土地を手に入れました、そこに親しみある芝生の斜面を作ろうというのであります。”何と簡単なことでしょう、しかし何と美しい企

てでしょう、芝生は同国には固有のものではなかったのです。成長の季節は余りにも短く土壌も亦荒れ過ぎています。しかしこのロータリー・クラブは、何か美しいもの、気の晴々れとするもの、静けさをもたらすもの、そして、生命の深さを示すものこそ、その土地に必要なものだと言っています。この言葉の中にロータリーが世界を廻って実行しようとしていることが一つの形で表現されているのではなはでしょうか。

オクスフォード大学のアルフレッド・ジマーマン卿は、我々と世界平和を引離している最大の原因について意見を求められたことがあります。卿が即答したところは、“心の狭まゐ個人”であったと云われています。まことにそれは我々すべてのことであります。“心の狭まゐ個人”であります。私の国の偉大な思索家、思想界の指導者の一人である、ハリー・エマーソン・フォスディックは同じ考えを別の言葉で表現しています。即ち、“この世界の悩みは、余りにも多くの人々が問題の側に立って満足し、解決の側に立とうとしないことである。”

私の考えでは、我々の自由が脅かされたとき、防禦の第一線に立つものは人々の心であり魂であります。そして、こうした侵略に対して、もし我々が精神的に装備されていなかったならば、物質的兵器は何らの役に立たないのであります。ここにこそロータリーの使命があり、全世界に涉ってロータリーが達成しようと努力している所以があります。

或地区大会に於て、最近までカナダの首相であった、ルイ・セント・ローレン閣下はこう云われました。“ロータリーの中に団結する人々は各国政府の力に優る力を持っています。”これはまことに強い発言であり、大変な言葉であります。閣下の言葉の意味は、皆さんや私が、“心狭まゐ個人”として各国政府の力や機能に優る活動が出来るということではありません。しかし閣下は、政府は国民の声であり、国民が発言しなければ政府の発言はないということを真に正しく述べていま

す。そして国民が団結して発言するとき、政府は必ず反応を示すものであります。

それは恐らく私が地図の製作者であるために感銘するのも知れませんが、その言葉を頭に浮べるのが好きですし、又それは私にとって大きな意義を持つものであります。誰の書いたものか知りませんが、こう書かれています。“地図の上には一つの国がどこで終るか境界線で示されている。しかし全世界を友人でつなぐ愛情には限界がない。”これはロータリーを表現するもう一つの方法です。全世界に渉るロータリーを。

日本と米国は多くの共通点を持っています。野球を愛好することもその一つであります。私の国では大リーグのシーズンが終りに近付いており、どのチームが世界選手権の栄冠を得るかに人々は興奮しています。皆さんの偉大なるお国で私が経験した喜びの一つは各地で野球の試合を見物し、選手のみならず観衆の熱狂振りを見ることであります。

私の国の競技のコーチで最も偉大であり且つ深く人々に愛された一人に、エイモス・アロンゾ・スタッグ老人があります。彼はシカゴ大学で、1892年から1933年、老齢のため71歳で引退するまで、コーチを勤めました。その後更に20年間、彼はフットボールのコーチを続け、又ストックトン大学の競技顧問として今日に及んでいます。本年の7月、彼は第95回の誕生日を祝ったのであります。

スタッグは優勝チームを作り出すよりもチームの精神を築き上げることによって立派な評判を得ています。エイモス・アロンゾ・スタッグの指導の下に選手生活を始めた人々の中から米国で第一流の運動選手が輩出しています。彼のチームは試合で後から後から補欠をくり出すので有名でした。彼は状況を観察してどのポジションを強化すべきかを判断し、ベンチ一杯に控える補欠陣を見廻すのでした。そこで一人の補欠を選んで呼びよせます。サイドラインに立つスタッグは、補欠の選手が知るべきすべての事、そしてなすべき任務を熱心に話します。しかしスタッ

グは、その補欠にすべてをはっきりと強調して話し終るまで試合には出ません。それがすむと彼は必ず選手の肩に手をおき、その眼を射るように顔を向けてこう云っておるのがよく判るのです。 “このベンチで私のやってもらいたいことをやれるのは君一人だ。私は君を名指して頼んでいるんだよ。” 肩を一つたたかれて選手はグラウンドにとび出して行くのでした。これはスタッグが度々用いたやり方でした。

皆さん方も私も曾て見出されたのだということをご存じですか。偉大な、広大なそして非常に優れた人間活動の分野から見出されて誰かゞ我々の肩に手をおいて、我々の職能、職業分類をロータリーの中に代表するように呼びかけたのであります。誰かゞ我々の肩に手をおいて、“君こそこの仕事に最適任の人だ” といったことです。我々がクラウドにとび込んだとき、我々が職業分類の借用を受諾したとき、我々は、我々自身、そして我々の接触する人々をも、何所の人でも善人であることと云う事実を自覚させるために、大きなそして重要な責任を負う機会を与えられたのであります。このことを皆さんはご存じの筈と思います。誕生の偶然がどこに発生したとしても、又生活の場処がどこにあるうとも、我々は同じ抱負、同じ希望と、そして同じ苦痛を抱いているのであります。そして我々は皆、平和とよい生活を欲求しています。

或社会学者の説によれば、我々の一人一人は100人に影響力を持つということです。これがいかに控え目な推定であるかお判りでしょう。ロータリー・クラブに於て、仕事の上で、信仰の仲間として、同業団体の中で、生活社会に於て、そして総ゆる生活の分野にあって、我々は100人より遙かに多数の人々と接触を持っています。統計的に云って、我々が100人に対して影響力を持つと仮定します、そしてその影響力はその半数が更に他の人々に同じような影響力を持つものであるとするならば、かかる影響の増殖はこの世界の人口25億の一人々々に及ぶわけでありす。

決して私は、ロータリーの会員であることの重要性を誇張は致しません。

決して私は、我々が他から超越し、分離した特権的グループとは考えていません。しかし、私は申します。我々は世界中の働く人々による特徴ある集団であります。そして一度行動を起せば各国政府を超えての力を持っています。それは我々の力が真実の声を代表し、世界を廻るロータリーの力であるからであります。私が今日、ここで、その力が華々しく活動しているのを自らの眼で拝見した如く、ロータリーはその目的を達成するために素晴らしい仕事をしていることを見、且つ知っているのであります。

ダグラス・マツカーサー米国大使の祝辞

わたくしは、日本国際ロータリー・クラブの3地区を代表する実業界、専門職業界、民間各指導者のみなさんに対し、きょうここに一言ご挨拶を申し上げる機会を得たことを喜びとするものであります。

貴団体の全国組織が1945年当時の7支部から現在の232支部、会員9,000余へと目ざましい発展を遂げられたことは、みなさんおよび世界中のロータリー・クラブが誇りとすべき偉大な記録であります。

日本国際ロータリー・クラブは指導者にふさわしい^{バイクリティ}生命力を発揮しました。故に世界組織の国際ロータリー・クラブがその助言を熱心に求めるのも不思議ではなく、国際ロータリー・クラブが10人の理事の1人に東京の小林雅一氏を戴くことは誠に幸わせであります。

わたくしは、社会奉仕の歴史の記念すべき一章となったこの偉大な記録を生み出されたみなさんに対し、心からの讃辞を惜しまないものであります。

わたくしがきょう、国際ロータリー・クラブ会員のみなさんにご挨拶申し上げることを特に幸甚のいたりと感じるのは、貴団体が崇高な目的と趣旨の下に活動しておられるからであります。

貴団体の憲章においては、高い道德律、会

員の一人々々による社会奉仕、および平和と善意と国際相互理解の増進が強調されております。これらはいずれも偉大な目的であります。しかしわたくしは、特に国際問題の処理に携わる人間として、きょうここで貴憲章が強調する国際相互理解について申し述べてみたいと存じます。

わたくしは約8カ月前日本に着任したさい、日本国中の各階層の方々に会って話し合いたいと述べました。また、わたくしが先づなすべきことは、これらの方々の意見に聴き入ることだとも申しました。なぜならば、聴き入るということは知識と相互理解増進へのカギであり、相互理解は、諸国民と国家の友好的共存の本質そのものだからであります。しかし相互理解は相手あってのことですから、わたくしは、日本の方々ととの間の会合が一方ではわたくしに、米国民が何を考えているかを知っていただく機会を与えるものであるとも思ったのであります。

わたくしは日本に来てから日本の色々な地方を訪れました。官界や実業界や労働界、さては農業界、教育界などの多くの方々と会って話し合いました。そして、これらの方々から日本の持っている問題や目的や抱負について多くのことを学びました。もちろんまだ日本について学ばねばならぬことが多く残ってはいますが、わたくしは、きょう以前に比べて日本の問題や目的をいっそうよく理解しうるような、そして米国の政府と国民にこれを一段とよく説明しうるような立場にあると自負しております。卒直に申しますと今までの話し合いを通して、一つちよっと気がかりな点が見出されたのであります。それは米国の方針、特に外交方針の基本となっている目的や原則について、時たま誤まった考え方や誤解に遭遇するという事実です。

友達同志の間でもむろん時として特定の問題について、誠実な意味での意見の食い違いがあるのは免れません。人によっては、このような食い違いまで危険なものだと思ふ向きもありますが、わたくしはそのような見方に

は賛同できません。というのは、意見の食い違いこそ、自由の端的な証明であり、自由な人間がいるところには、どこでも誠実な意味での意見の相違があるはずであるからであります。意見の相違がないように見える所では自由が抑圧されているということは、われわれの知っている通りであります。したがって意見の食い違いは正常なことであって危険なことではないとわたくしは信じております。しかし真に危険なのは、誤解に基いて個人や国家が相手方の原則や目的につきいつわりや誤ったことを信じたり言ったりする場合であります。

そこで、わたくしはこれからしばらく米国が自国にのしかかった重責を果す上において外交の指針としている基本的な原則や目的の一部について、簡単に述べて見たいと思います。

まず第一に、米国の根本政策は平和の促進に基礎を置いております。米国は戦争を嫌悪します。米国はすべての自由な人々の最高の目的の一つ、従ってそれらの人々の指導者が献身する目的は、人間が人間を犠牲にすることのないようにすることだと考えています。

しかし米国は、単は戦闘が行われていないというだけの平和で十分であるとは考えていません。外国の、そして国民の望まない政権の押しつけによって脅かされているいかなる国民または国家も、自らの自由を守ろうと努力せずして為々諾々とそのような支配を受入れるだけで平和は得られるのであります。しかし人々に対して自由の行使を否定するような平和は平和ではありません。それは不正の一状態、すなわちその内部に将来の紛争の種子を宿している、最も邪悪な種類の不正であります。従って単なる平和だけでは十分ではありません。すべての国の国民のために正義と自由をともなった平和がなければなりません。

米国政府が理解し、すすめるようとしている自由は、すべての国の国民が自らの選んだ政治的、経済的制度を形造る権利を含んでいます。われわれは、政府は人々に奉仕するため

のものであり、人間は国家の奴隷ではないと信じています。そして、われわれはすべての国の国民のための自由と独立を信じ、それを全面的に支持するものでありますが、それと同時に今日の「国家的独立」は事実上は「相互依存」を意味すると信じています。なぜなら、今日の世界ではいかなる自由国家も、単独または独力では、自らの安全を確保することも、繁栄することもできないからであります。自由諸国家は今日の世界では同様に自由を尊重する他の国々との協力においてのみ繁栄することができ、自らの自由を維持することができるのであります。そしていかなる国家も、その国力または能力いかににかかわらず、国際社会における他の国々に対する道徳的義務と責任を十分に認識し、それを引受けるのでなければ、その国民の有益にして繁栄した生活を確保することはできません。いかなる国家も、かくすることによってのみ、われわれのすべてが求めているよりよき世界にしかるべき寄与を行うことができるのであります。

国連憲章は、すべての国家が国際場裡でとる行動を律する基本原則ともいうべきものを、いともあざやかに示しております。すなわち同憲章は、国際問題を処理するに当って武力を行使したり武力をもっておどしたりしてはならぬと強調しております。わたくしは武力行使をしたりあるいは武力をもっておどし、みずからの意志を他国におしつけようとしたり、あるいはたとえ一時的であるにせよおしつけているような国家に対してはすべて道徳的な世論の圧力を加えることが、今日のすべての自由国家の厳粛なる義務であると思えます。

ここで軍縮について二、三述べたいと思います。米国政府は、軍備の制限と管理は、今日世界が直面している最も重要で緊急な問題であるとの信念をもっております。信頼しうる軍備の制限と管理制度ができれば、人類すべての将来の安全保障に大いに役立ち、ひいては今日世界にのしかかっているいっさいの

不安も解消することでありましょう。また現在軍備のために消費されている膨大な資源を、社会の向上と人類の福祉のために使用することも可能となり、さらに、現在の不信と緊張状態を、大幅に緩和する効果もあるのであります。

しかし現在の世界は、武力の否定、軍備の制限等については、単なる約束や紙の上の協定だけでは安心できない状態であります。国連憲章はすべての加盟国に、国際問題を処理するについて他国に対し武力を行使したり武力をもっておどしたりしないと誓約させております。しかしこの誓約も、朝鮮やハンガリーにおける侵略や武力の行使を阻止することはできませんでした。

人類の将来を左右する軍縮に関する分野で、米国が他の西欧諸国政府と共に、常に、信頼の出来る協定、すなわち国際管理査察制度を基盤とする信頼のできる協定を作って軍備の制限と管理を実施し、奇襲攻撃の危険を抑制し、核兵器の生産と実験を行う必要をなくして恒久平和の達成に役立つように努力を払っている理由がここにあるのであります。

世界には、この軍備制限と管理の原則、ならびに有効な国際管理査察制度によって奇襲攻撃の危険を防止しようとする原則を未だに受諾しない国があります。しかし世界の道義的な世論が世界平和を護る有効な措置を支持して重い圧力をかけるならば、その実現は決して望みがない訳ではありません。このような結果を導き出すためには、世界の最もすぐれた政治家たちが協力して不断の努力を払うとともに、各国民もたゆまず支持を与えることが必要であります。

最後に国連に関してすこし申上げて見たいと思います。わたくしはときにひとが国連を非難するのを聞きますが、わが米国政府は国連こそ平和のための最も有効な機関の一つであると確信しております。国連は、その憲章に規定されていてこの国際社会の大部分の政府と国民に力を与えている崇高な道徳律が聞かれ感じとられる唯一の討論の場であります。

この国連を支持し強化することこそ米国の対外政策の基本原則であります。

今日は時間の関係上、米国の対外政策を律する根本的な考え方についてほんの二、三触れるにとどめましたが、おそらく皆さまは、わたくしの申し上げたところから、これらの考えがいたずらに高遠な抽象的議論ではないということに同意されることと思います。これらの考えは、わたくしたちの住む現実の世界を勘定に入れ、米国の建国の原則である、自由と正義、個人の尊厳、道徳律および法律による支配、ならびに人間相互の尊厳と奉仕という考えを基盤としているのであります。

米国の精神は、国際ロータリーがモットーとしていているところのもの、すなわち「自己を滅却した奉仕——もっともよく奉仕するものはもっとも多くの利益を受ける」と多くの点で共通しております。

わたくしは今日皆さまがここにお集りになって、日本ロータリー・クラブが歩んできた輝かしい道を回顧されるのを機会に、この高い理想の達成に身をささげられた皆さまに敬意を表すものであります。

ご清聴を感謝いたします。

連合地区大会決議

決議第1号 国際ロータリー会長代理派遣に対する感謝の件

国際ロータリー会長チャールズ・ジー・テンネント氏は、アメリカ合衆国イリノイ州エバンストン市より、現国際ロータリー事務総長ジョージ・アール・ミーンズ氏を1957年国際ロータリー第350.355及び360地区連合大会に国際ロータリー会長代理として派遣した。そして第350.355及び360地区並に他地区より本連合大会に参集した、総てのロータリアン及びその家族は、夫人同伴来朝したジョージ・アール・ミーンズ氏のメッセージとその人徳に甚大なる感銘を受けた。且つ、ジョージ・アール・ミーンズ氏は、我国におけるロータリー再建の父として、我国九千有余のロータリアンの敬慕

の的である。依って

国際ロータリー第350.355及び360地区連合大会は、国際ロータリー会長チャールズ・ジー・テンネント氏に、此思慮深き人選に対し深甚なる敬意を表し、又ジョージ・アール・ミーンズ氏に、その賢夫人と共に遙に來朝し、本大会に一段の光彩を添えられ、且つ我国全ロータリアンがロータリー奉仕の精神を新たに示したことに對し深厚なる感謝の意を表することを茲に決議する。

決議第2号 テンネント国際ロータリー会長今年度の目標に関する件

テンネント国際ロータリー会長は、本ロータリー年度の目標としてロータリー強化のため、動員、拡大、探究及び奉仕のことを提唱している。

我々ロータリアンはその重要性に鑑み自らを動員してクラブの活動に当り、ロータリーの基礎を確固たらしめるためにクラブそのものは勿論新たに有力なるクラブの結成に尽力し、ロータリーの健全なる発達を期するためロータリーの文献を探究してロータリーの知識を増進し以てロータリー奉仕の完成を期するものである、依ってわれわれロータリアンは、テンネント会長の目標達成に協力し以てロータリーの発展に伴う住み良い社会の建設、ひいては世界の平和に貢献せんことを期することを、茲に決議する。

決議第3号 前ガバナーの功勞に対する感謝の件

1956—57ロータリー年度の国際ロータリー第60地区におけるロータリーの目覚ましき発展は前ガバナー伊藤文吉君の超我的奉仕と、綿密なる指導の賜である。又、第62地区の華々しき発展は、前ガバナー戸田直温君の献身的奉仕と周到なる指導に負うところ甚大なるものがある。依って

本大会の名において、前ガバナー伊藤文吉君及び前ガバナー戸田直温君の偉大なる功績に對し敬意を捧げるとともに凡ゆる良き指導に對して深甚なる謝意を表することを、

茲に決議する。

決議第4号 米国大使に対する感謝の件

本連合大会を東京都において開催するに当り、ダグラス・マクアーサー二世米国大使は公務多端なるにもかかわらず親しく本大会に出席してメッセージをよせられ参加者一同に大なる感銘を与え、国際奉仕に貢献するところがあった。依って

本大会はその名においてダグラス・マクアーサー二世米国大使に対し敬意を払い且つ感謝の意を表することを、茲に決議する。

決議第5号 ホスト・クラブ及び関係諸団体に感謝の件

1956年度地区大会において第60及び第62地区はそれぞれ1957年度の地区大会を連合大会として東京都内において開催し、東京南ロータリークラブにホストを依頼することを決議した。その後両地区は再編成されて第350、355及び360の三地区に分れ、そのまま連合大会となった。

斯様な複雑なる事情の下に、良く本大会が準備され、全く成功裡に運営せられ、参加者に満足を与え、且つ多くの収獲をうることのできたことは、主として大会委員を初め、東京南ロータリー・クラブ会員各位の徹底せるロータリー精神の発露に基ずく有能なる奉仕と、関係ある東京都の諸官庁、公私諸団体の理解ある協力の然らしめたものである。依って

本大会に参集したロータリアン及びその家族は本大会の名において、東京南ロータリークラブとその会員各位の献身的奉仕に対して深甚なる謝意を表すると共に内閣総理大臣、外務大臣、宮内庁、都知事、関係都民、部内各主要新聞社、各放送局、ボーイスカウト、警察、消防署、電話局、交通公社、その他に対して本大会を成功に導くために大いに協力せられたことを認識し、深厚なる謝意を表することを、茲に決議する。

決議第6号 東京都に記念品贈呈の件

1957年度第350、355及び360地区連合本会を東京都において開催するに当り、東京都

及び都民の深き理解と厚意ある協力をえて、本大会参加者は快適にその目的を達することができ、一同満足し感謝の念に燃えている。依って

本大会は之を記念するため、参加ロータリアンが各自拠出して金一封を東京都に寄贈することを、茲に決議する。

決議第7号 ロータリーの凡ての文書及び文献を邦訳する件

ロータリー精神の普及は、本年度国際ロータリー会長チャールズ・ジー・テンネント氏の提唱する、ロータリー知識の探究にある。そのためにはロータリーの凡ての文書とその文献がロータリー・クラブ所在国の国語を以て書かれることが最も望ましい。国際ロータリー理事会は、英語を国際ロータリーの公式用語として認めている。

然しながら、アトランティック・シチーにおいて開かれた第37回年次国際大会は、英語の国際ロータリー印刷物は、国際ロータリー理事会によって出来るだけ速かに英語以外の国語で入手できるようにすることを決議している。そして

日本におけるロータリーは、益々発展し今日では約10日に1クラブが結成せられる情勢にあり、その結成は漸次僻地に及びつつある。我国においてロータリーを完全に、しかも速かに理解するには英語の文書及び文献と共に、邦語の文書と文献が必要である依って

本連合大会は中央事務局より発送せられる公文書に邦訳を添え、ロータリーの文献をできるだけ邦訳するよう、国際ロータリー理事会に要請することを、茲に決議する。

決議第8号 地区ガバナー・ノミニー選出に関する件

国際ロータリー細則第11条第7節、第8節及び第9節において地区ガバナー・ノミニー選出の方法を規定している。そして我国における現状と従来の経験は、同条第7節(ハ)項の地区ガバナー指名委員会によることが最も適当と認められる。依って

本連合大会は第350、355及360地区が明年度より各々その地区にガバナー指名委員会を設け、その地区のガバナー・ノミネー銓衡の任にあたらしめることを、茲に決議する。

決議第9号 1958年ダラス国際大会に提出せらるべき規定改正案及び決議案に関する件

1958年ダラス国際大会に提出せらるべき規定改正案及び決議案は、その数実に48件の多きに達している。しかもその中には我国ロータリーに重大なる関係を有するものが多い。そしてこの膨大なる議案をくわしく検討するには委員会を設ける必要がある。1958年ダラス国際大会における規定審議会に出席すべき、本連合地区の各代表者は、その所属各地区の総意をその規定審議会に代表しなければならない。依って本大会は各地区ガバナーにおいて適当なる委員会を設け1958年ダラス国際大会に提出せらるべき諸議案を検討し、その示唆を1958年規定審議会の当該地区代表に通告すべきことを、茲に決議する。

決議第10号 1961年度国際大会東京招致に関する件

日本におけるロータリーは年を追うて益々発展しつつあり、前年度には10日に1クラブが誕生する状況にあった。そのクラブ数は既に232に達し会員数9,000人を超え本暦年度内にクラブ数は250に達し、会員数は10,000人を超過する状態に直面しつつある。そして

1954年京都における全日本地区連合大会において、1960年又は61年の国際ロータリー大会を東京に招致することを決議し、東京ロータリー・クラブはその手続をとった。次で1956年仙台における第60地区大会において京都における決議案を再確認した、そして

国際ロータリー理事会は東京ロータリー・クラブの招請状について考慮を払った結果、1960年度の国際大会はその開催地が既に決

定しているので1961年度の開催候補地として考慮せられたが、理事会の多数は英国のロンドンを支持している現状である、依って

本大会は、1954年京都連合大会及び1956年仙台第60地区大会決議を更に確認し、1961年度国際大会を是非共東京に招致するよう一層の努力を払うべきことを、茲に決議する。

決議第11号 地区再編成に関する件

我国におけるロータリーの発展には著しいものがあり、逐次クラブ数を増加し、過去数年間に全国1地区であったものが1953年には2地区となり、1955年には4地区に増加し、本年より5地区となった。しかもクラブは益々新設せられる機運に際会している。依って

本大会は日本内における地区の再編成に関して研究し随時適当なる示唆をなさしむる機関を考慮する必要ありという意志を表明することを、茲に決議する。

決議第12号 次期大会開催地に関する件

地区大会は原則として単位地区によって開催すべきものである。旧第60地区及び62地区は、日本のロータリー拡大の結果として第350、355及び360の3地区に再編成された、そして

第350地区においては小樽ロータリー・クラブが1958年度の地区大会を招請し、気候、施設その他において8月中旬が大会開催に最も適当の時期と考えられている。又

第355地区においては前橋ロータリー・クラブが1958年度の大会を招致し、その近接地伊香保は位置及び設備その他が地区大会開催に好適している。猶お

第360区においては岐阜ロータリー・クラブが、1958年度地区大会開催の希望を申入れている。岐阜市は、位置施設環境共に大会開催に最もふさわしい。依って

第350地区次期大会は小樽市において1958年8月中に、第355地区次期大会は前橋ロータリー・クラブによって1958年10月上旬

より10月中旬の間に、第360地区次期大会は岐阜市において1958年9月下旬より10月上旬の間に、それぞれの地区ガバナーの決定する期日において開催し、それぞれの市にあるロータリークラブにホストを依頼することを、茲に決議する。

○ George R. Means 君夫妻名古屋 来訪：Martha and George Visited Nagoya

Means君夫妻は東京の連合地区大会出席后西下の途中小林R.I. 理事夫妻と共に10月1日午後1時50分名古屋駅着の特急ミツバメで名古屋を訪れ、同日午後5時から観光ホテルで開かれた近郊21クラブの合同歓迎晩餐会に出席しました。集った約100名のロータリアン並に夫人達に囲まれた Means 君は、8年前の日本に於るロータリー再出発当時の想出話に花を咲かせ、主客共に楽しいひとときを過しました。同夜は特に在名古屋米国領事クーリツジ氏夫妻、小牧空軍基地司令官ルイス大佐、名古屋アメリカ文化センター館長ボハセック氏夫妻も列席しました。

同夜は日本旅館ミカモメに一泊、翌2日は日本陶器の工場を見学した後、名古屋南R.C. の例会に出席、午後1時55分発の特急ミツバメで京都に向いました。

○ 一日講習会：One Day Institute

一日講習会は愈11月6日名古屋西R.C. をホストクラブとして名古屋市駅前豊田ホールに於て開催されます。出席者は予め御送りした資料をよく御研究の上、この資料を御持参御出席下さい。

○ インターシティ・フォーラム： Inter City Forum

石川、富山県 10月24日 ホストクラブ：小松
フォーラムリーダー 戸田直温君
岐阜県 11月9日 ホストクラブ：大垣
フォーラムリーダー 伊藤次郎左衛門君

静岡県 12月1日 ホストクラブ：熱海
フォーラムリーダー 柳瀬省吾君
愛知、長野県 1月25日 ホストクラブ：豊橋
フォーラムリーダー 戸田直温君

○ 1957～58年度地区協議会：

District Assembly for 1957～58

1957～58年度の地区協議会は来年4月上旬名古屋R.C. がホストクラブとなって名古屋市で開催されることになりました。確定期日その他細目は追ってホストクラブから通知される筈です。

○ ロータリー財団週間：Rotary Foundation Week

ロータリー財団の目的達成と同財団に対する関心と支持を増大するために毎年11月の15日を含む一週間をロータリー財団週間としております。本年は11月10日～16日の一週間がロータリー財団週間です。各クラブに於かれてはこの週間を意義あらしめるようなプログラムを作って頂き度いと存じます。地区ロータリー財団委員、ロータリー財団奨学生又は嘗て奨学生であった人、或はクラブのロータリー財団委員長等をスピーカーとされるのも結構だと思ひます。

R.I. ロータリー財団委員会では1957～58年度の同財団寄附金目標額を75万ドルと設定致しましたが、この目標達成のためには皆様の絶大な御協力を必要と致します。ロータリアン諸君の寄附の他に此の週間の運動の一つとして、会社や団体等に呼びかけ、ロータリー財団の趣旨と活動状況を説明して会社団体等から大口寄附をつのることも亦重要なプログラムの一つでしょう。この様な団体よりの寄附が得られた場合は、その衝に当たったロータリアンが属するクラブの功績となります。

○ ロータリー財団寄附：Contribution to Rotary Foundation

9月中に御払込を受けましたロータリー財

国奨学金寄附は次の通りです。御協力感謝致します。

クラブ名	贈金額	新会員 @ \$ 10.	旧会員 @ \$ 1.
上野宮	¥7,200	2	—
一宮	3,600	1	—
合計	10,800	3	—

○ チャーター伝達式：Charter Presentation Ceremony

次の通りチャーター伝達式が開催されますから多数御出席下さるよう御願ひ致します。

岐阜南R.C.	10月31日
浜松東R.C.	11月17日
三島R.C.	11月27日

○ 公式訪問予定：Scheduled Official visit

その後の公式訪問予定は次の通りです。

クラブ名	クラブ協議会	例会出席
桑名	11月4日	11月4日
松本	11月11日	11月11日
諏訪	11月12日	11月12日
飯田	11月13日	11月13日
美濃	11月16日	11月16日

○ 哀悼：Condolence

沼津R.C. 会員杉山猪作君は10月1日逝去されました。茲に謹んで哀悼の意を表します。

○ Rotary Today

9月20日現在でクラブ数総計 9,577、会員総数 450,000 名。

○ 第360区 1957年 9月分 出席率表

今月 順位	クラブ名	例会数	今月末 会員数	対期初 増減	出席率 算出の 会員数	出席率 (%)
1	沼津	4	48	=	48	100.00
2	高岡	4	35	-1	34	100.00
3	津島	4	30	=	30	100.00
4	熱海	4	28	+1	28	100.00

5	四日市	4	52	-1	52	99.52
6	名古屋西	4	56	=	56	99.10
7	三島	4	26	+4	26	99.04
8	岐阜南	4	24	=	24	98.83
9	伊勢	4	33	+1	33	98.48
10	浜松東	4	28	+7	28	98.22
11	浜松	4	50	+1	50	97.56
12	刈谷	4	29	+1	29	97.35
13	豊橋	4	48	+2	47	97.34
14	蒲郡	4	29	-1	29	97.33
15	清水	4	44	=	44	97.16
16	一宮	4	46	+1	46	96.74
17	半田	4	35	=	35	96.43
18	多治見	4	35	+1	35	96.43
19	尾西	4	28	+1	28	95.53
20	伊東	4	28	=	28	95.53
.....平均出席率 (43クラブ) 94.42						
21	富山	4	44	-3	44	95.42
22	豊橋北	4	25	-1	25	95.08
23	岐阜	4	54	+1	53	94.83
24	桑名	4	34	=	34	94.11
25	金沢	4	79	=	79	93.99
26	上野	4	36	=	36	93.75
27	吉原	4	32	=	32	93.75
28	津	4	37	-1	37	93.24
29	礪波	4	29	+1	29	93.13
30	大垣	4	39	+1	39	92.95
31	名古屋南	4	21	=	21	92.86
32	静岡	4	56	-1	56	92.85
33	岡崎	4	36	=	36	91.67
34	名古屋	4	127	+3	126	91.07
35	松本	4	33	+1	33	90.63
36	高山	4	28	=	28	90.16
37	松阪	4	40	=	40	90.00
38	魚津	4	24	=	24	89.58
38	七尾	4	23	+1	23	89.12
40	小松	4	35	=	35	87.86
41	飯田	4	34	+2	34	87.67
42	美濃	4	22	=	22	86.66
43	諏訪	4	32	+11	32	78.90
合計			1,652		1,648	94.059.87